

日本海側の「総合的拠点港」伏木富山港の整備促進

- 1 新湊地区 中央岸壁の大水深化、国際物流ターミナル北4号岸壁の整備
- 2 伏木地区 臨港道路伏木外港1号線、外港緑地の整備
- 3 富山地区 2号岸壁の老朽化対策、臨港道路西宮線の整備

1 新湊地区 中央岸壁の大水深化、国際物流ターミナル北4号岸壁の整備

2019年10月「世界でも美しい湾クラブ」富山県総会開催

2隻同時操岸同時荷役  
H30年4月11日 展望広場 供用開始  
H29.3.19開港

緑地整備(展望広場の整備)(県事業 H29~)

コンテナヤード拡張2.5ha (H30.4.29 供用開始)  
(県事業 2.2ha H29~)  
(国事業 0.3ha H27~)  
計画取扱量83,000~115,000TEU/年  
北4号岸壁(-19m)の整備 L=75m (国事業 H27~)  
レール延伸整備 L=75m(県事業H30)

H30.11月 運転開始

国際物流ターミナル  
10.6ha  
2.5ha 拡張  
L=333m  
L=75m  
L=197m延伸  
L=280m(-10m) → -14m  
L=280m(-14m)

岸壁及びレール延伸工事がH31年7月末に完了予定  
1,2万トン級(1,000TEU級)のコンテナ船が2隻同時操岸可能に  
大水深化するコンテナ船への対応として、  
継続的な岸壁の高伸着費、475トン級(1,200TEU級)

【新規事業採択】中央岸壁の大水深化 L=280m  
5万トン級の貨物船が着岸可能に(国事業)H31.4開港

中央2号岸壁  
パワ荷物専用クレーンの更新(県事業 H28~29)H29.10.11供用開始



◆環日本海・アジアのゲートウェイ

定期コンテナ航路  
ウラジオストク線 月2便(H22.7月 ラストボート化)  
ロシア横濱RORO船航路の定航運航月13便(全開航)

国際定期航路 定期コンテナ航路 4航路 H24.10月開航  
定期RORO船航路 1航路



北陸電力のLNG運搬船  
「セリ・アマナ」(9万5千トン)  
(H30年5月17日初入港)

新湊マリーナの拡張整備(県事業 H26~H30)

陸上保管57隻 (H28年7月完成)

陸上保管44隻 (H30年9月完成)

大型船舶用クレーン (H29年5月17日完成)

水上格納37隻  
日本郵船の  
15mロング&N-ス  
(H28年7月完成)

船舶保管施設の拡張(240隻)  
(460隻→706隻)

クラブハウス増設(H29年8月17日完成)

2 伏木地区 臨港道路伏木外港1号線、外港緑地の整備

22万トン級のクルーズ客船の寄港に対応した施設整備  
(国事業 H29.12月完成)

伏木外港

「MSCスプレディダ」13.8万トン  
H30年5月8日寄港

外港緑地の整備  
外港緑地1.5ha (県事業H29~)

パワ荷物専用施設  
2021年稼働予定

外港緑地1.4ha(県事業H28~)

外港緑地の整備

クルーズ客船の寄港を働きかけ  
(2018.6.29スイス MSCスプレディダ)

伏木港大規模老朽化対策(県事業)

3 富山地区 2号岸壁の老朽化対策、臨港道路西宮線の整備

臨港道路伏木外港1号線の整備  
延長L=980m(県事業 H26~)

2号岸壁(-10m)老朽化対策 L=185m  
(国事業 H25~)

臨港道路西宮線の整備 延長L=800m  
(県事業 H28~)

RORO船着後状況

富山湾「世界でも美しい湾クラブ」  
加盟を活用した地域活性化施策の推進

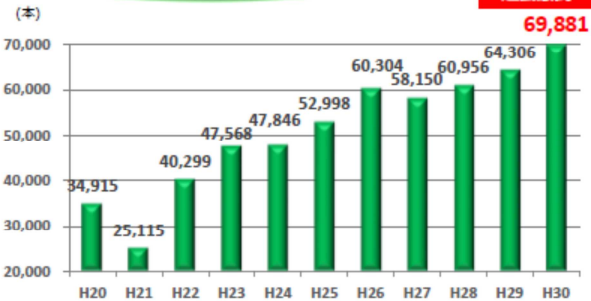
富山湾が「世界でも美しい湾クラブ」に正式加盟(H25.10.18)

## 金沢港 貨物、クルーズの状況

### ●コンテナ貨物、国際定期航路数の増加

- ・県内企業の金沢港利用率  
平成18年：26% ⇒ 平成25年：45%
- ・国際定期航路数 **週10便**
- ・コンテナ取扱量  
H28：6万本、H29：6万4千本超  
H30：6万9千本超  
⇒ **3年連続で過去最高を更新**

### コンテナ貨物の推移



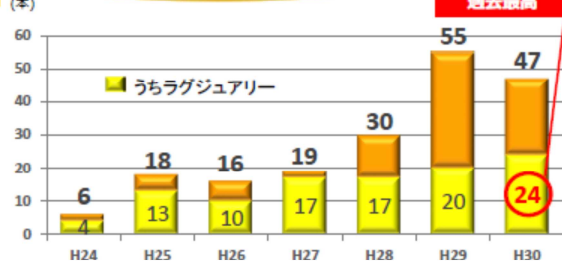
3年連続  
過去最高

平成19年のコマツの金沢工場立地を契機に、貨物増→航路数増→貨物増という好循環

### ●クルーズ船の増加

- ・クルーズ船寄港数  
H30：47本 ⇒ **本州日本海側トップクラス**  
うちラグジュアリー船：24本 ⇒ **過去最高**  
大型クルーズ船：7本 ⇒ **過去最高**  
日本海周遊クルーズ：11本
- ・寄港した船会社数  
H24：4社 ⇒ H30：12社 (2倍以上)

### クルーズ船の推移



ラグジュアリー船  
過去最高

世界的に有名な観光地（兼六園、ひがし茶屋街、白川郷、永平寺など）に近いことから、「北陸の玄関口」となっている地理的優位性に加え、新幹線開業が追い風となり寄港数が増加

## 金沢港機能強化整備（クルーズ・貨物の増加への対応）

- 1 金沢港クルーズターミナルの整備
- 2 アクセス道路、駐車場、緑地の整備、船だまりの埋立
- 3 無量寺・戸水に点在するコンテナ上屋の移転・集約

東京オリンピック・パラリンピックの開催  
前年度（2019年度）の完成を目指す

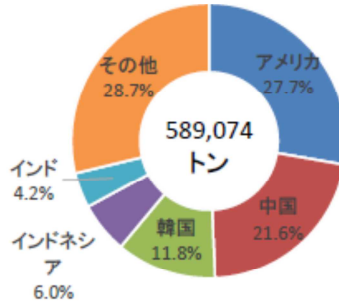


# 金沢港、七尾港の国別貨物割合（平成30年）

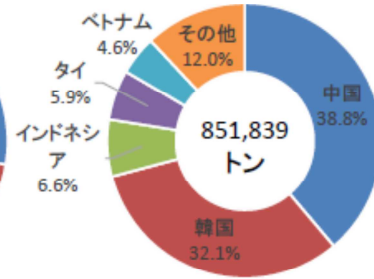
金沢港



金沢港 輸出貨物



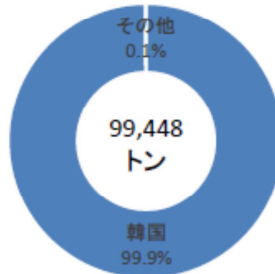
金沢港 輸入貨物



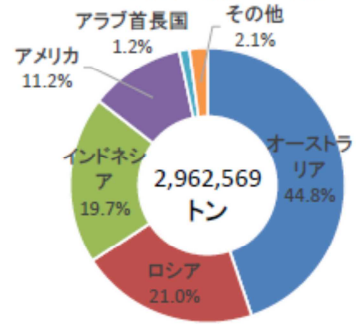
七尾港



七尾港 輸出貨物



七尾港 輸入貨物

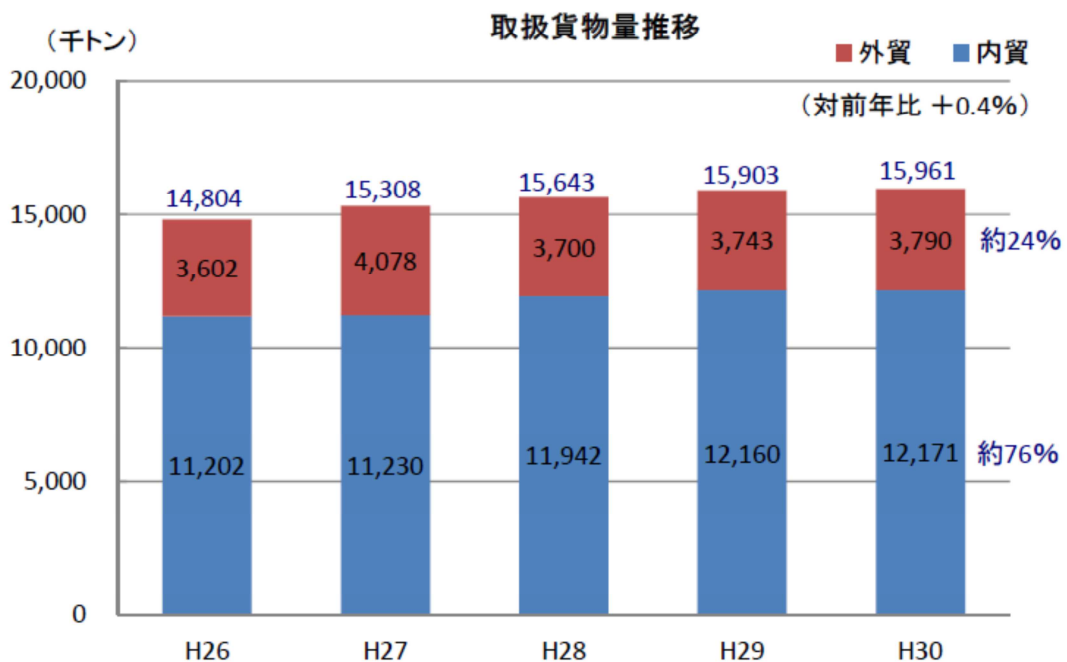


## 福井県内港湾の現況

### ○敦賀港

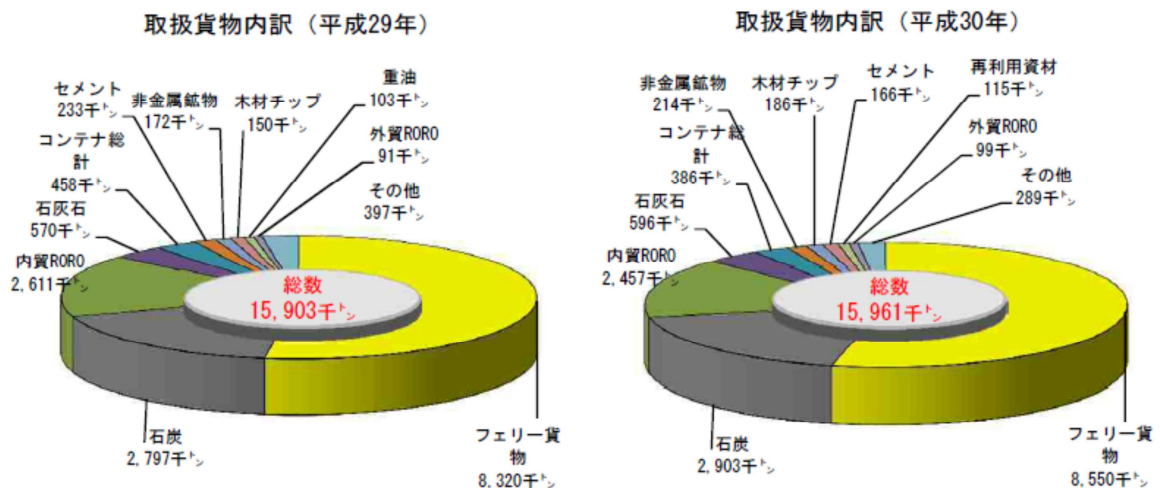
#### 1) 平成30年 取扱貨物量と内訳

- ・ H30年の取扱貨物量は1,596万トン（速報値）（前年比+6万トン +0.4%）であり、4年連続増加、H20年以降で最高
- ・ 北海道航路の貨物（フェリー、内貿RORO貨物）が堅調に伸びている。  
（H29：1,093万トン → H30：1,101万トン 8万トン増）
- ・ H29年7月のバイオマス発電所稼働に伴い、木材チップ、PKSの取扱いも増加。  
（H29：19万トン → H30：24万トン 5万トン増）



主な内訳：

- フェリー、内貿RORO貨物が約69%（1,101万トン）
- 石炭が約18%（290万トン）



## 2) 平成30年 コンテナ貨物の動向

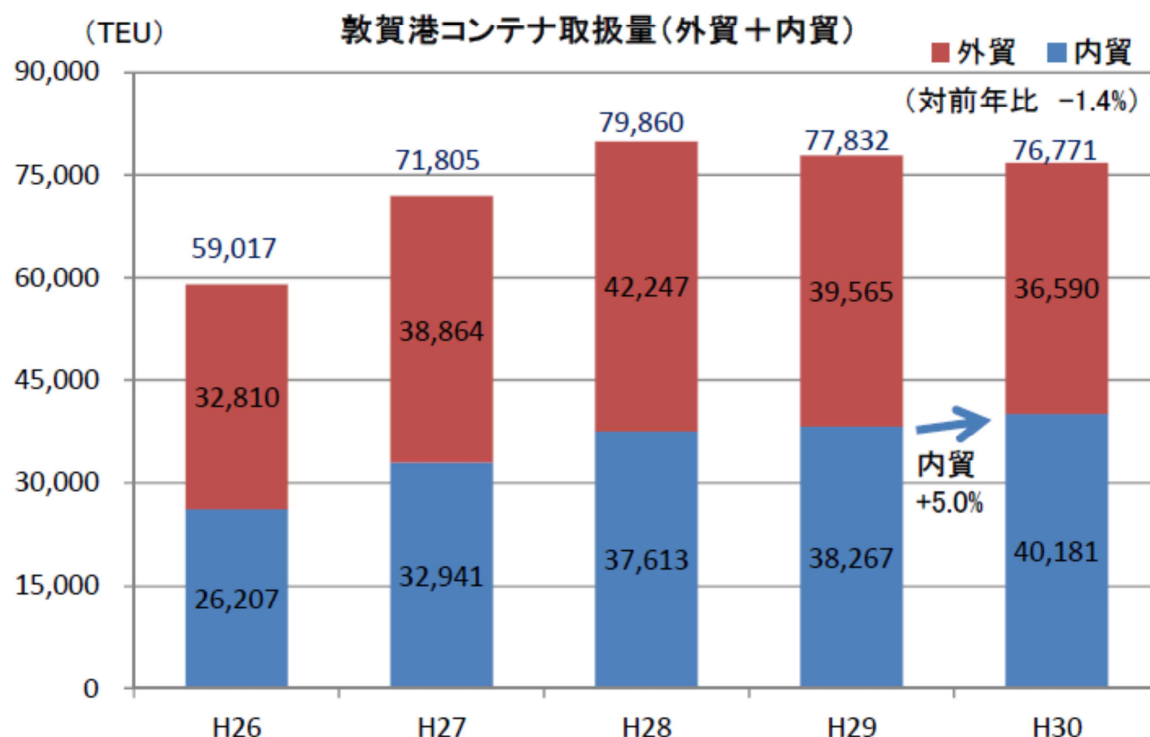
- ・ コンテナ取扱量は76,771TEUであり、前年に引き続き本州日本海側第2位
- ・ 内貿 RORO船（苫小牧航路）が好調に推移  
（H29:31,973TEU → H30:33,859TEU 1,886TEU増 +5.9%）  
H25以降5年連続増加しており、船舶大型化の効果もあり5年間で約3割増  
（H25:25,325TEU 5年間で 8,534TEU増 +33.7%）

博多航路が新たに開設されたことにより、九州⇄東日本の貨物や、苫小牧航路とのトランシップによる九州⇄北海道の貨物が今後増加する見込み。

⇒博多航路の利用増を図るため、福岡市と協力してポートセールスを強化  
⇒博多港、苫小牧港と連携して日本海側航路をPR

- ・ 外貿 主要荷主企業の生産拠点見直し等の影響から減少

⇒引き続き、中京、京阪神の企業を中心にポートセールスを強化  
⇒特に企業BCPの観点から敦賀港への利用転換を促す。



## ○敦賀港のトピックス

### 1) 鞠山南地区国際物流ターミナル拡張事業 施工中

(直轄事業)

- ・ 岸壁延伸事業については昨年3月の着工以降、ケーソン4函が完成。
- ・ 平成30年度補正予算によるケーソン製作が発注され、地盤改良工事も順次発注。

(県事業)

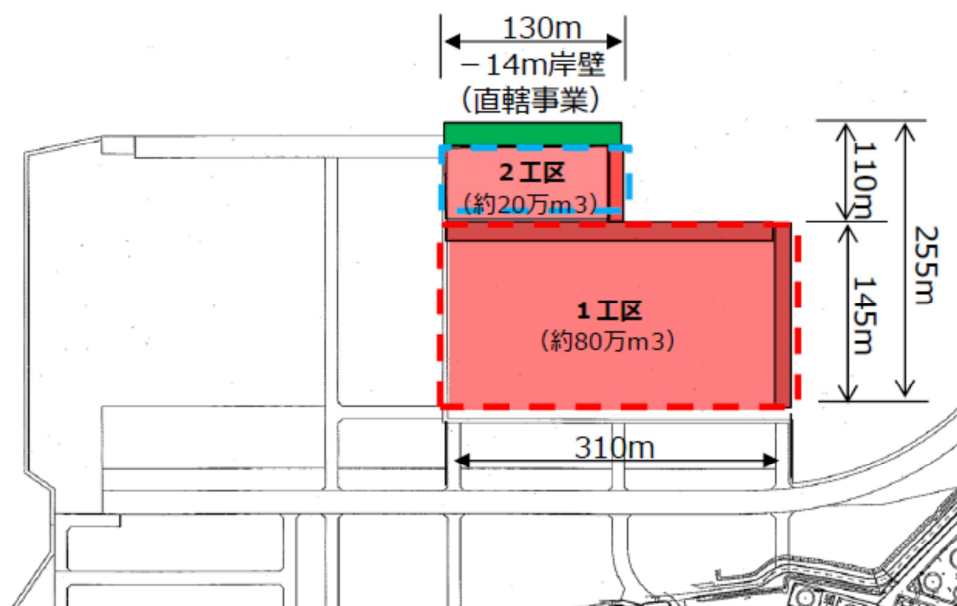
- ・ ふ頭用地埋立については平成28年3月から北陸新幹線、原子力災害制圧道路による建設発生土を活用し、海上からの埋立に着手しており、今年2月には1工区の仮締切を完了した。(埋立土量 全体100万m<sup>3</sup>のうち50万m<sup>3</sup>完了)
- ・ 仮締切完了後は、陸上からの埋立工事に着手しており、今年度上半期中には1工区全体を陸地化する予定。(埋立土量24万m<sup>3</sup>)
- ・ 2工区の施工にあたっては、岸壁延伸事業との工程調整が重要であることから、直轄事務所と連携しながら早期供用開始に向けて事業を進める。



施工状況 (国事業)



ふ頭用地施工状況 (H31.4.5)



## 2) 近海郵船(株) 敦賀／博多 新規航路開設

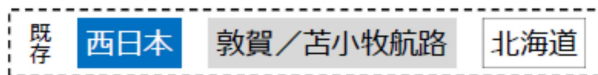
- ・今年4月1日、本州日本海側と九州を結ぶ唯一の航路となる敦賀港～博多港 R O R O 船航路が開設された。
- ・県では、夜間荷役の安全性確保を図るため金ヶ崎岸壁ならびにふ頭用地の照明施設等を整備した。
- ・本航路は当面は週3便、本年7月からは週6便運航の予定となっており、増便によりさらに必要となるふ頭用地の整備を進めている。
- ・既存の北海道航路と合わせて敦賀港の貨物背後圏は日本全域に広がる。
- ・九州⇄本州⇄北海道を結ぶ日本海側のユニットロードの拠点として今後、港の機能強化を図る。



歓迎式典記念撮影（H31.4.1）



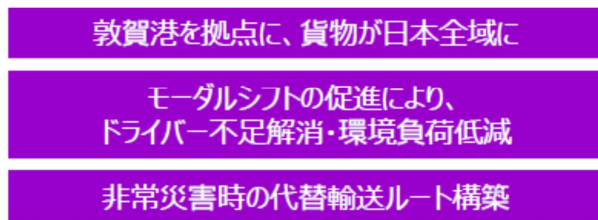
荷役の様子（H31.4.3）



+

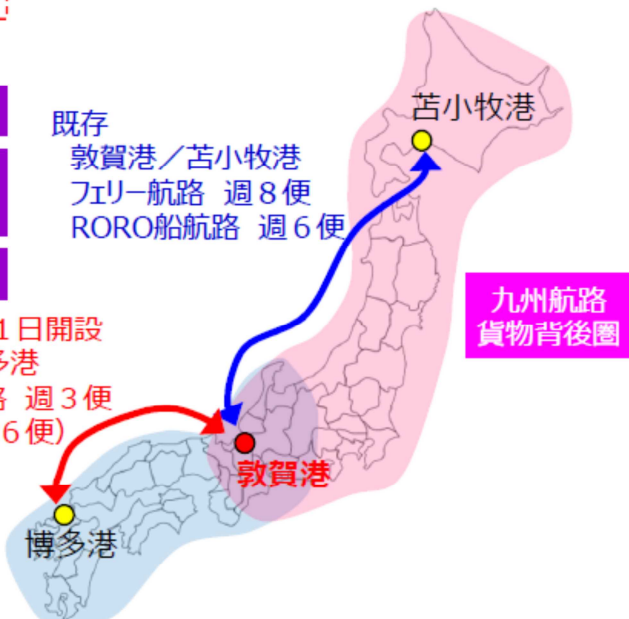


⇓



平成31年4月1日開設  
 敦賀港／博多港  
 RORO船航路 週3便  
 （7月から週6便）

北海道航路  
 貨物背後圏



### 3) 敦賀市第2産業団地 整備進む

- ・ 敦賀市は、敦賀港に近接する田結地係において第2産業団地を令和2年春完成を目指し整備中。(開発区域面積 8.92ha 分譲面積 5.88ha)
- ・ 今年3月には楠原輸送(株)の進出が決定。同社は現在、北海道から敦賀港に海上輸送された農作物などを関西・中部方面に配送しており、「敦賀港～博多港RORR船航路を利用して業務の拡張を図りたい」としている。



第2産業団地 位置図



第2産業団地全景 (H31.2.26)

### 4) ダイヤモンド・プリンセス 引き続き敦賀に寄港

- ・ 「ダイヤモンド・プリンセス」は平成29年9月の初寄港以来、計3回寄港しており、延べ1.2万人の乗客・乗員が敦賀を訪れ、直接経済効果は約1.2億円と試算されている。
- ・ 今後、令和元年は11/16、令和2年は4/15、8/27、9/13、11/6の寄港が予定されている。



ダイヤモンド・プリンセス 敦賀港寄港の様子(H29.9.2)

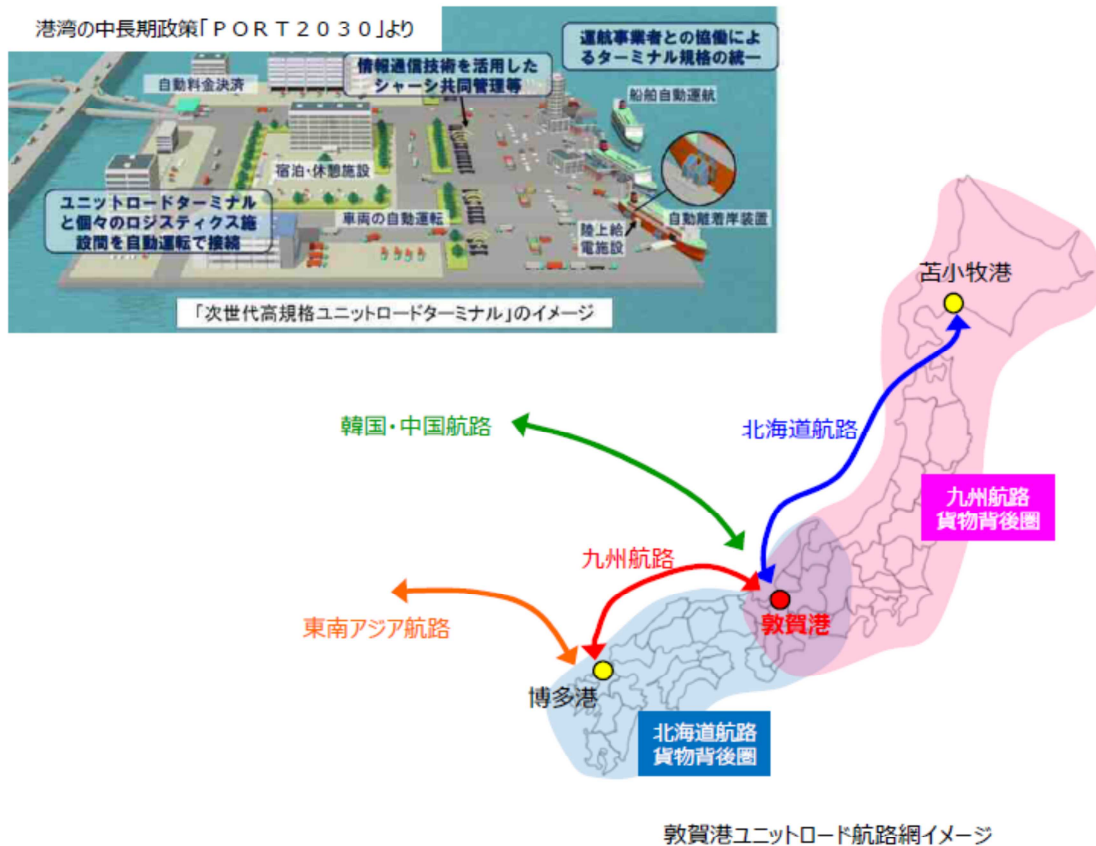


## 5) 港の混雑、新たな利用に対応した長期構想の検討

- ・ 取扱貨物量の増加、新規航路の開設により、ヤード不足が深刻となってきている。
- ・ 敦賀／博多 R O R O 航路が新規開設されたことにより、北海道航路とのトランシップ需要が発生するなど、内貿ユニットロードの拠点としての役割が高まりつつある。
- ・ 大型クルーズ船の寄港回数も増加してきており、受け入れ態勢の強化も求められている。



- ・ 物流機能の強化、港湾の利用高度化を目指した長期構想を検討していく。



## 6) 敦賀港 開港120周年を迎える

- ・ 明治32年（1899年）に「開港場」に指定された敦賀港は、今年7月に開港120周年を迎える。
- ・ 県民、市民の方々に大きく変貌を遂げつつある敦賀港の果たすべき意義と役割を考え、知っていただくため、年間を通じて「敦賀港開港120周年記念事業」を行う。



○福井港

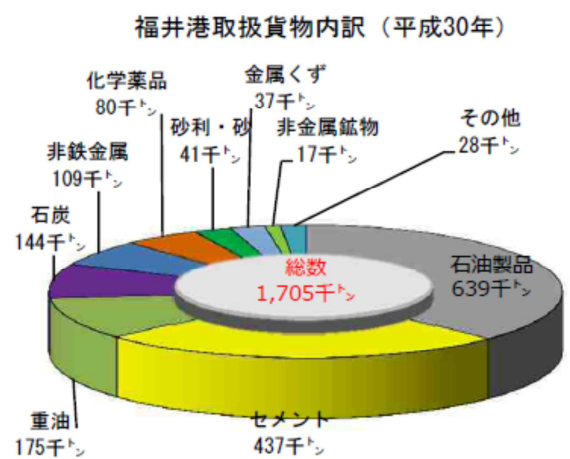
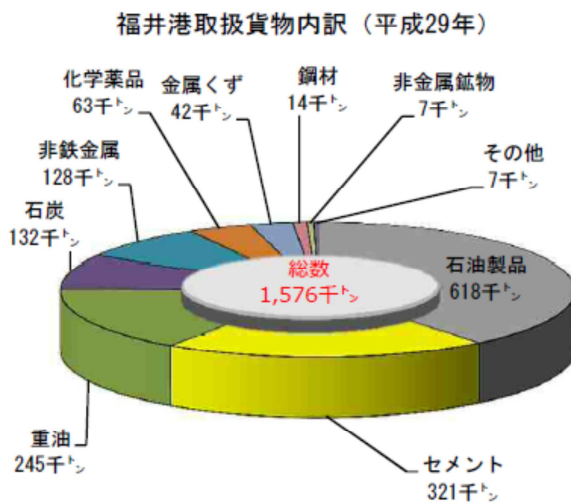
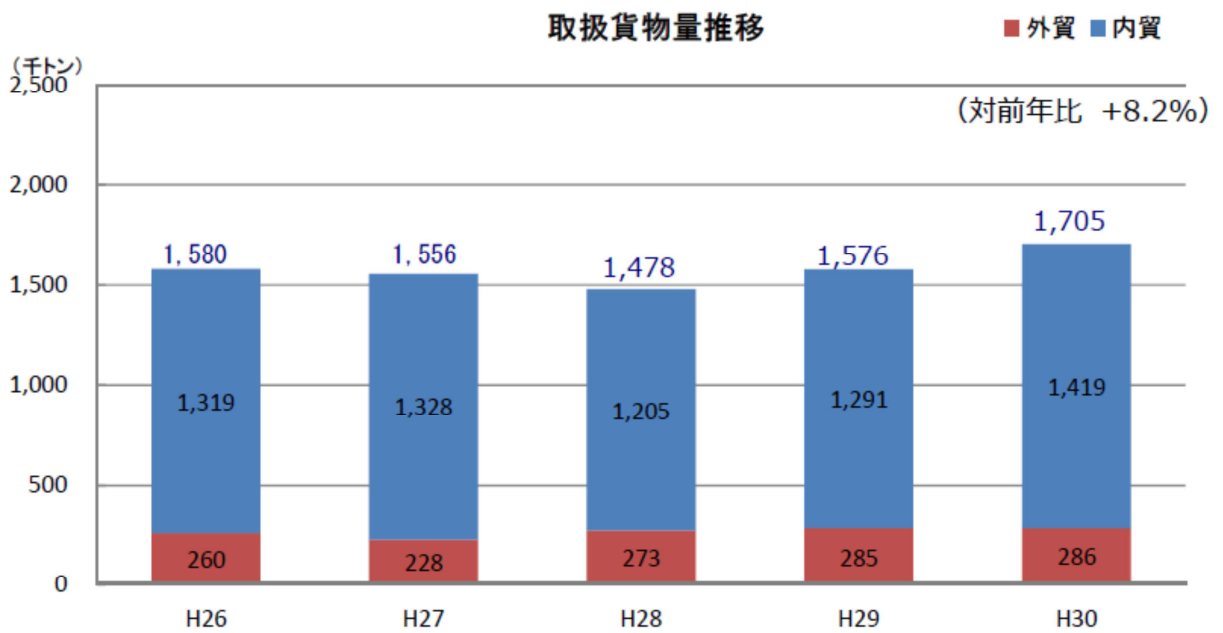
1) 平成30年 取扱貨物量と内訳

- ・ H30年の取扱貨物量は約171万トン（速報値）であり、前年より約13万トンの増加
- ・ 要因：セメントの増（約11.6万トン）←新幹線工事での需要増

⇒今後、県内企業の福井港利用率のアップなど着実なポートセールスの継続。

⇒嶺北一円のコンテナ貨物を福井港の倉庫を利用してとりまとめ（バンニング）し、敦賀港から輸出するサービスを開始

⇒非鉄金属について、テクノポート福井内の工場増設により安定した増加が見込まれる



## ○福井港のトピックス

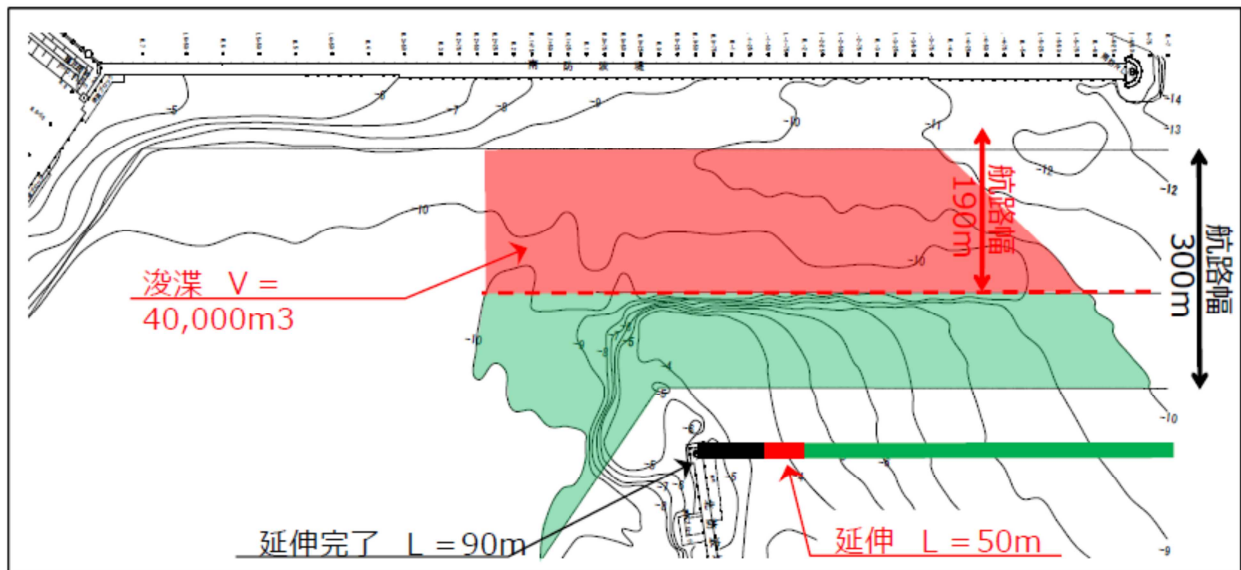
### 1) 航路確保のための取組

#### 北防砂堤の延伸

- ・中央航路埋没の抜本対策として平成28年度より工事に着手。
- ・今年度予算にて90m完成見込み。

#### 中央航路浚渫について

- ・毎年、約4万m<sup>3</sup>の浚渫を行っているが、運用できる航路幅の拡大には至らず、現状の維持にとどまる。
- ・浚渫コストを下げるため、浚渫砂の処分地を確保し、事業の進捗を図っている。



### 2) みなとオアシス

- ・平成30年7月13日に「みなとオアシス三国湊」は賑わいの拠点となる「みなとオアシス」に登録され、地域住民の交流促進や地域の魅力の向上につながる取り組みを行う。
- ・旧森田銀行本店を含む周辺施設は、「三国湊レトロ」として江戸～大正時代の町並みを色濃く残している。



(県民福井 H31.4.13)

### 大正建築でフレンチを

「旧大木道具店」改修、レストランあす開店

#### 板井・旧三国湊

坂井市三国湊の旧三国湊にある和風の近代建築「旧大木道具店」が、フレンチレストランに生まれ変わった。17日に祝賀式典があり、県や市、地元の関係者らが祝賀を授けた。19日にオープンする。

大正期の建築で、歴史的な価値がある。近くの旧森田銀行本館（国登録有形文化財）とともに地域の象徴のような存在だ。ここに三国湊米倉跡にあった伝統的店舗「サヌキ」が移ってきた。

旧大木道具店の近所で生まれ育った郷土出身の40代がオーナーシェフ。外観保存と機能回復などの工費約600万円は県と市が、内装や厨房設備などの費用は個人が負担した。

店では三国の魚介類や和牛、よくいぼりなど地元産の食材を使った料理を出す。昼は午前11時から午後2時まで、夜は午後8時から午前9時まで営業する。

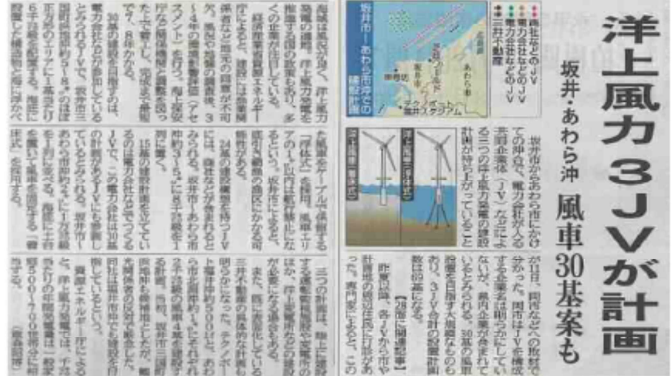


レトロな雰囲気を残しつつフレンチレストランになった旧大木道具店＝坂井市三国湊北本町4丁目  
 個人は祝賀で「生まれ育ったところで店ができることを心より喜んでいる。昔のような雰囲気を残してほしい」と述べた。  
 火曜定休。問い合わせは同店（0770・07・9337）。（朝日新聞）

(朝日新聞 H31.4.18)

### 3) 新規発電事業の参入

- ・ 港と広大な敷地の組合せという好条件により、現在複数社よりバイオマス発電、バイオガス発電、洋上風力発電など、各種発電事業からの引合いがある。
- ・ 実現すると貨物量の増加につながる。



(福井新聞 H31.1.12)

### 4) クルーズ船入港

- ・ 福井港に9月13日に「ばしふいっくびいなす」の入港が決定。
- ・ 6年ぶりのクルーズ船入港となる。この入港を足掛かりに誘致に力を入れる。

**豪華客船「ばしふいっくびいなす」で行く**

福井新聞社は、日本クルーズ客船の「ばしふいっくびいなす」をチャーターしての山陰クルーズ旅行参加者を募集します。福井港から乗船、船内は全食事で、ショータイム、バー、カジノなどを楽しめます。2日目はオシノナルツアードで出雲大社、足尾銅毒、水木しげる記念館、松江市内散策や堀川遊覧、玉造温泉など山陰の名所を巡ります。3日目午前、敦賀港に帰着します。県内各地発着の福井港・敦賀港への送迎バスも料金に含まれます。

**山陰クルーズ** 参加者募集

募集人数 620人 (最少催行人数350人)  
 旅行費用 1人92,000円から  
 期 日 9月13日(金) 出発 15日(日) 帰着

【日程】県内各地(バス) 福井港 船内(1泊)  
 「塘瀬着」オシノナルツアード山陰観光(バス)  
 自由行動「塘瀬着」船内(1泊) 福井港着「県内各地(バス)」

【問い合わせ・申込先】(株)近畿日本ツーリスト 中部 福井支店 ☎076-250-4001

【旅行説明会】  
 ▼日時 5月11日(土) 午前10時から午後1時から、2回開催  
 ▼会場 福井新聞社プレス21 事業企画 福井新聞社  
 旅行企画・実施(株)近畿日本ツーリスト中部 福井支店(観光庁長官登録旅行業第20038号)

福井新聞社

